

---

# どこにでもあるかもしれない会話

朔架

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

どこにでもあるかもしれない会話

### 【Nコード】

N5835M

### 【作者名】

朔架

### 【あらすじ】

ありふれてるかもしれない会話の続編のような続編じゃないような会話文です

「あ、先輩、卒業おめでとーございます」

「それ、今更じゃない？今何月だと思ってるの？？」

「3月！」

「よし、ちよつと殴らせろ」

「やだなー小粋なジョークですよー」

「棒読みの時点で殺意がましたよ」

「先輩、ひどいなーこんなにかわいい後輩に対して」

「君みたいな後輩をもって俺はどれだけ苦労したことが」

「どんだけー！！」

「マジで殴っていい？？」

「あ、先輩、なんできてるんですか？」

「や、夏休みだし、君らの様子でも見ようと思っただけなんだが」

「へー」

「興味ないなら聞くなよ…」

「様子見に来るぐらいなら、バイトでもして稼げばいいのにと」

「そしてお前はその稼いだ金を狙うのか」

「流石、先輩。私のこと良く分かってますね」

「それ以外に君が俺と関わることってあったか」

「部活で」

「や、まあ、間違っってないけど…」

「何か問題でも？」

「あるけど言わねー」

「あ、私に口で勝てないからですか？」

「うるさいよ、君」

「あ、先輩、またきたの？」

「来ちゃ悪いかな？」

「いや、別に？」

「疑問に疑問で返すなよ」

「で、何の用ですか？」

「先生は？」

「今日何曜日か分かってます？」

「水曜日じゃなかったか？」

「正解は木曜日。よって職員会議で先生はいません」

「マジか？来た意味ねー」

「どんまいです」

（後書き）

ども、朔架です。

最近ネタがないので、会話文に逃亡しました。

先輩の扱いがどんどんひどくなるのは仕様でございます（笑）

平日更新しないつもりだったのになー

ま、いつか。

ではまた、別の作品でー

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5835m/>

---

どこにでもあるかもしれない会話

2010年10月25日19時05分発行